



チリンチリンで行こう

東本町三丁目 皆川真理子さん 31歳

1歳8カ月になる隼人の最近のお気に入りには、自転車に乗って祖父母の家へ遊びに行くことです。もちろん頑張って40分ペダルをこいでいるのはママなのですが...

道中、それはもううれしそうに「あっバス!」「トラックはやーい。」と大はしゃぎでサイクリングを満喫しています。

そんな風に喜んでいる隼人をみると、筋肉痛、日焼けもなんのその。「ママ。チリンチリンで行こう。」と満面の笑みで誘われると私も頑張らずにはいられません。隼人と自転車に乗るまでは、こんなにもサイクリングが楽しいとは思いませんでした。

たくさんの笑顔をくれる隼人との時間をこれからも大切にしたいと思います。



サイクリングを楽しむ隼人くん(1歳8カ月)

マイ・ガーデニング

花の便りをパソコンで



バラの栽培を始めたのは、今から25年程前のこととなります。千葉のバラ園から苗を購入し、フェンス沿いに植えました。

始めたころは、現在のように大がかりになるとは思っていませんでした。子供がフェンスに登るのをバラをはわせて防げればといった単純な目的で植えたのです。毎年、世話をしていくうちに、通りがかりの人たちから「今年は、バラが特にきれいですね。」などと声がかかるようになり、花づくりに一層力が入るようになりました。

バラは咲き終わってから、花柄摘みや茎を横にはわせるなどの作業があります。棚にはわせた花柄を摘むには、脚立等が必要で長時間の作業は結構大変です。

パソコンを始めてから、バラの写真を取り込んで、花の便りをつくって子供たちに送っています。

本町一丁目 高橋一彦さん

KOGA 万華鏡

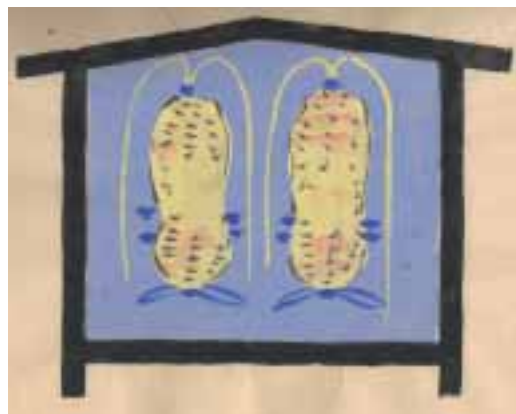
はきものに宿る力

小絵馬巡礼

古河の絵馬師鈴木忠蔵の絵馬を集めた『常武両毛絵馬図集』に「わらぢ」と題された絵馬が紹介されています。それは、古河市長谷町子の権現に奉納される絵馬で、足の痛みに御利益があると記されています。

風俗史家宮尾しげをがこの本を編集したのが昭和15年というから、既に64年も経っているのですが、今もって「はきもの」の奉納が絶えませぬ。古河にはこ

こ以外にも子の権現をまつり、足腰の病の治癒や出征兵士の無事帰還を祈願したところがあります。そこでも、その願いがかなったときには、願ほどきと称して草鞋を奉納するとされてきました。



鈴木忠蔵筆『常武両毛絵馬図集』から「わらぢ」

ところ、なぜこのように「はきもの」は神仏に奉納されるのでしょうか。単純に足腰の病の治癒だから「はきもの」なのでしょう。

日本では古くから魔除けとして道のかたわらや、境界となる場所に「はきもの」を掲げました。また、古くから貴人や偉人の足跡を尊ぶと

いったこともありました。雪に残る弘法大師の足跡、池となったダイダラボッチの足跡、そうかと思えば、山男の足跡の砂を神棚へ供えるといったところもあつたようです。さらに、子供の初誕生の贈答品に「はきもの」が用いられるところもあつたり、葬儀の死装束として死者に草鞋をはかせたり、人生の節目には「はきもの」がつきものであつたようです。下駄に限つていえば、それをまくことによつて接する地上と地下のふたつの世界、それをつなぐ役割をもつ、すなわち「あの世」と「この世」を結ぶ神聖なものと考

えられていたとい

う説もあるほどです。しかし、なにゆえ「はきもの」にパワーが秘められていると信じられてきて、子の権現に奉納されてきたのかは、実のところよくわかりません。とはいっても、どんなパワーがあるかも知れず、明日の天気を占うために、ついつい「はきもの」を飛ばしていたわたくしですが。

古河歴史博物館学芸員 立石尚之